

上田市視察報告書

- 視察日：平成 29 年 5 月 18 日（木）
- 視察先：長野県上田市（人口：158,854 人、面積：552 km²）
- 視察事項：運賃低減バス事業の取り組みについて
- 視察者：原輝雄、有賀正義、友田宗也
- 受け入れ担当者：都市建設部 管理課 交通担当政策幹 竹内正弘 ※敬称略

◎運賃低減バス事業実施の背景

上田市では、市街地を循環するバスから、老人センターを発着する福祉系送迎バス、さらには地元住民による自主運行バスまで市民の足を確保する様々な交通手段が存在しています。また、民間バス事業者によっても複数のバス路線が運行されていますが、年々利用者数が減少し、存続が危ぶまれる状況になっていました。そこで、「乗って残す」「乗って活かす」をキーワードに運賃低減バスが平成 25 年 10 月から運行されるようになりました。

この運賃低減バスは、全ての乗客を対象に既存の運賃を低減することにより、利用者の増加を図ろうとするもので、年間利用客数をそれまで（18 路線で 99 万人）の 1.5 倍に増やすことを目標に 3 か年の実証運行としてスタートしました。ところが、実証期間の 3 年を経過しても利用者数は目標人数に届かず、運賃の低減相当分を運行事業者に支出する市からの補助金は、平成 27 年度で約 2,900 万円となりました。しかしながら、実証運行スタート時と比較し、平成 28 年度には当初の 23.5% 増まで利用者数が増えたことから、さらに実証期間が 3 か年延長されることになり、現在まで利用者増を図る取り組みが継続されています。

◎所感

藤沢でも高齢化社会の到来を受け、地域の足の確保が課題となっていますが、幸いにして、まだバス路線の存続が危ぶまれるような状況には至っていません。一方で、既存のバス路線等がない地域においては、地域提案型のコミュニティバスや乗り合いタクシー事業等が実施されていますが、採算性確保に向けた利用者の増が課題となっているところもあります。

ちなみに、上田市では地域の足を確保する手段として多様な形態が存在していますが、それらに対して、総額 2 億 4350 万円（平成 28 年度）もの市費が投じられており、運行に関する周辺環境の整備に市が携わり、経済的な支援は行わないとする藤沢市の方針とは大きく異なる状況にあります。

また、運転免許証自主返納促進事業も今年度から実施されており、運転免許証を自主返納した市民を対象にタクシー利用補助券を 1 万円分交付しています。この事業においては、運転免許証を自主返納した際に交付される運転経歴証明書をタクシー乗車時に提示することにより、利用者の本人確認を行う仕組みとなっています。とかくタクシー券

やバスカード等を交付する事業においては、必ず本人確認の方法が課題となりますが、この上田市の方式は一つの参考になると思われます。

いずれにしても、上田市においては多様な形態により地域の足の確保策が実施されており、今後の藤沢市の取り組みを考える上で参考になりました。